



編集発行
白鷺教育会
代表 進藤正洋
姫路市飾磨区清水2
(姫路市教育会館内)
☎ (079) 233-0892

地域の「教育文化」を考える

会長 進藤正洋 (S43)



◇ 伝わる「教育文化」

今なお、白鷺教育会室の書棚には、創始者である野口援太郎先生の教育著書や東井義雄先生の教育実践書をはじめ、先輩諸氏の教育実践記録、個人出版による自叙伝、歌集など、貴重な資料が残されております。

それらを整理していますと、白鷺教育会一二〇年の歴史は、近代日本の学校教育の変遷と重なっていること、また、多くの先人によって地域「教育文化」が創出されてきたこと、社会の変化とともに新たな「教育文化」が生まれていることなどに気づきます。そのような教育資料や実践記録などを地域の「教育文化」として

収集し、後世に伝えていくことも、教育文化団体である白鷺教育会の大きな役割だと考えます。

◇ 新たな「教育文化」

三年余り続いた新型コロナウイルスも、ようやく収束に向かい、社会全体が平常に戻りつつあります。

「大きな災害や事件は、社会の変革をもたらす」と言われますが、このたびのコロナ禍で、「教育文化」にも様々な変化が生じています。学校の「学び」では、次のようなことがあります。

①感染防止のため、学校のオンライン化や機器整備が急速に進みました。その結果、黒板とチョーク、教科書による従来の授業は、ICTや端末機等の活用による学習指導へ。教育のデジタル化は「教育文化」（「学校文化」）や教師の「教育観」にも大きな変化を及ぼ

しているのではないのでしょうか。②一方では、長期の臨時休校や学校行事、部活動等の中止、変更などを経て、従来の「対面、対話」による教師と子どもとの人間関係や学びあい、体験学習、集団活動などによる「学び」の大切さがわかり、あらためて、人間の「教え・学ぶ」の原点や本来の「教育文化」（「学校文化」）のあり方をお考えになった先生も多いと思います。

◇ 「教育文化」の意味と意義

「教育文化」の向上を考えるためには、まず「教育文化」の意味と意義を理解することが必要だと思います。

「文化」とは、辞書的に言えば「人類が衣食住の理想を求めて創り出す生活形成の様式と内容の総体であり、知識、技術、芸術や学問、道徳や習慣等」のことです。そのなかの教育に関するものが「教育文化」ということになります。そして、学校、家庭、地域社会の適切な連携から「教育社会」が形成され、望ましい教育環境や「教育文化」が生まれると考えられます。

また、白鷺教育会は、①よき「教え」とよき先輩や仲間との「出会い」を大切にしている教師の専門家である教師が地域社会の「教

育文化」の振興に寄与する教育文化団体である」と、その意義や目的が会則に示されており、したがって、現職の方は学校で日々の教育活動の創意工夫など、確かな「学校文化」の形成に、退職された方は地域の「教育社会」の一員として、自らの経験を生かし、それぞれの立場で、学校支援や地域の「教育文化」の向上に取り組まれております。

このように、会員が世代を越えて、学校を中心に地域の「教育文化」の向上に寄与していくことが白鷺教育会の大きな特色になっています。

私たちは、常に自己研鑽に努め、教育の専門家として、学校や地域の「教育文化」の振興にそれぞれの立場で寄与していく、そのような白鷺教育会をめざしていきたいと思っております。

会報118号 目次

- 1 会長あいさつ
- 2 幹事長、副幹事長あいさつ
- 3 令和5年度白鷺教育会役員
- 4 叙勲・表彰者 (R5)、栄進者 (R5)
- 5 活動報告 (R4)、活動計画 (R5)
- 6 会計報告 (R4)、会計予算 (R5)
- 7 新入会員 (R5)、退職者 (R4)、物故者 (17号以降)
- 8 各部だより (総務部、文化部)
- 9 各部だより (研修部、厚生部、HP)
- 10 次号特集 (会報部)